題字：十代目坂東三津五郎

坂東会

No.138
令和4年11月1日号

坂東会 100周年を迎えました

八代目所蔵の浮世絵鑑賞

「月雪花名残文台（つきゆきはななごりのぶんだい）」

歌川豊国画（初代）

画像提供：国立劇場

柳の木の下に繋がれた船に、金烏帽子、水干姿の白拍子が鼓を手に座っています。文政三（一八二〇）年九月、中村座での「浪枕月浅妻（なみまくらつきのあさづま）」、通称『浅妻船』を描いたものです。画中に「月雪花之所作事　坂東三津五郎　御名残り狂言仕候」とあるのは、翌年から三代目三津五郎が上方の芝居に出勤するため、しばらく江戸を離れるからです。所作事は七変化で『浅妻船』のほか、『玉兎』『狂乱』『猩々』『寒行』『女扇』『恋奴』でした。

舞踊『浅妻船』は、元禄の頃、英一蝶が描いた朝妻船の絵を元に作られたと言われています。朝妻船とは、琵琶湖の東側と大津を往復した船のことです。この船には遊女が乗り、船客を慰めたり、情を売ったりしたといいます。一蝶の作品が、時の将軍を諷したとお咎めを受けたことから、この画題はますます世に知られることとなり、同様の図が多く描かれました。

文政三年の暮れに大坂へ上った三津五郎は、翌三月に中村松代座に出勤、この時も切狂言で『傾城』『源太』『大工』『浅妻』など七変化の所作事「染模様難波土産（そめもようなにわみやげ）」を踊っています。『傾城』で歌った自作の歌が流行したと記録されています。

（根岸美佳・学芸員）

＊八代目家元が国立劇場へ寄贈した浮世絵は約一七〇点以上にのぼり、その中から主に踊りに関するものを取り上げ鑑賞します。

家元あいさつ

坂東会創立百周年記念舞踊会を終えて

これからの百年をより良いものに

家元　坂東　巳之助

九月十七日、十八日の二日間にわたり開催された「坂東会創立百周年記念舞踊会」が無事に終了致しました。

十八日、最後の演目である私の奴道成寺が終わった後に、実行委員をはじめとする会場に残っていた方々と手締めを致しましたが、感染対策や当日日本を直撃した台風の影響などもあり限られた人数しか参加して頂けませんでしたので、その際に申し上げた私の言葉を自分自身の記憶を辿って文字に起こし、会報をご覧の皆さんにもお伝えしたく思います。

＊＊＊

皆様本当にお疲れ様でした。

本来二年前に開催されるはずだったこの会は、前回の九十五周年が終わってすぐに企画が動き出しましたので、その頃から数えると実に七年越しでの開催となりました。その九十五周年は、その年の二月に父十代目が亡くなり私がその企画を引き継ぐ形でさせていただきました。家元として右も左もわからない私を皆さんが支え、引き立てて下さったお陰でどうにか二日間の会を終える事ができた時の気持ちは忘れられません。本当にありがたいと感じました。

それから七年経った今でも、その思いは少しも変わっていません。

皆さんあっての家元であり、お一人お一人があってこその坂東流、坂東会でございます。

私はこれまでの百年間のうちではたった七年間だけの家元ですが、これからの百年間のうちの何十年かの間、家元として頑張っていくつもりでおりますので、どうかこれからもよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました、お疲れ様でした。

＊＊＊

…何しろ原稿など用意していたわけではないのでそっくりそのままというわけではありませんが、概ねこのようなことをお話致しました。

この会報ではまた別の内容で百周年について書こうかとも思ったのですが、二日間を国立劇場で過ごし、携わる皆さんの思いを肌で感じ、その上で奴道成寺の幕切れで鐘の上にたった時に去来した思いをそのままに話したこの時の言葉以上の事がどうしても思い浮かばず、こうした形を取らせて頂きました。

改めて、これからの百年をより良いものにしていくべく頑張っていく所存ですので、会員の皆さんには坂東流・坂東会の仲間として末長くご協力・ご助力のほどをお願い致します。

本当にありがとうございました。

坂東会創立100周年記念舞踊会
会員の皆さん＆出演者の皆さんへ応援メッセージ

舞踊会開催までの間、SNSやホームページで会員＆出演者の皆さんへ応援メッセージを掲載していました。
一部ご紹介させていただきます。

舞踊会前日のSNSより

坂東会創立100周年記念舞踊会まで、あと1日！いよいよ明日、舞踊会当日を迎えます。晴れやかなガッツポーズで、出演者一同明日を迎えます！
（SNS本文より）

舞踊会前のホームページより

当日まで1週間、ここまで来る道のりは長かった。2年と9カ月。2年前だったらもう少し元気に踊れたのに…当日は頑張ります。
（寿子副会長）

舞踊会前のホームページより

坂東流らしく、芝居心を忘れずに。意味のある踊りを踊る。
（勝友相談役）

舞踊会前のホームページより

自然の栄知に守られ生かされている私達。この日、この舞台、この慶び。皆一緒に楽しみましょう。そして前進。
（三津映相談役）

舞踊会前のホームページより

心ある踊りと演じる事を大事に…。古風な坂東流、それが新しい日本舞踊。未来に幸あれ。
（三津桜相談役）

舞踊会前のホームページより

百周年記念舞踊会に向かい、2年間、コロナ、健康に気をつけてお稽古してまいりました。ゴールまであと一息。頑張りましょう！
（三津兵衛相談役）

記念舞踊会が終わって思うこと

坂東会事務所　鷹野弘一朗

会員皆様におかれましては、坂東会創立百周年記念舞踊会の開催おめでとうございました。また、運営にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

私が坂東会事務所にお世話になったのは、平成八年の六月からです。坂東会創立七十五周年記念舞踊会の開催を二カ月後に控えた頃で、書類作成の手伝いに声をかけていただきました。今思えば、開催前の一番忙しい頃だったかと思います。事務所内は皆忙しくされていましたが、私は言いつけられた仕事しかせず、申し訳なかったと今頃になって反省をしています。

私はいち事務員として、その後の記念舞踊会を三度経験させていただきました。事務業の他に、舞踊会の当日はロビーでプログラムの販売係をさせていただいたこともありますし、受付を務めさせていただいたこともあります。楽屋周りのことなども色々と経験をさせていただいたことが、このたびの記念舞踊会に生きたと思っております。ご指導くださいました事務所の先輩方に御礼申し上げます。

一〇〇周年という大きな節目に当たったこのたびは、舞踊会の開催の他に百周年記念誌の制作を企画いたしました。坂東会の歴史を見るなかで、お名前をよく拝見する先生方のお弟子さんを訪ねて、首都圏はもとより各地で取材をさせていただき、貴重なお話を伺い、また貴重な資料を拝見させていただきましたことは今でも私の宝物です。どこの誰やら分からないような私に対して、親切にお話をしてくださった皆様に感謝をいたしております。

たくさんの方にお聞きしたことや、事務所内外の資料を基に記念誌作成チームの方々が見事にまとめてくださり、立派な本が出来上がりました。会員皆様のお手元にもあるかと思いますが、書籍『初心忘れず』もまた私の宝物です。

このたびの記念舞踊会は、感染症の影響で異例のことが多くありました。今でこそ見慣れましたが、楽屋に出演関係者しか入れず、大劇場の楽屋がガランとして見えるなんてことは、以前では考えられませんでした。出演関係者の皆様、ご来場の皆様にはご不便とご迷惑をおかけしたことが多くあったと思います。この場をお借りしてお詫びを申し上げますと共に、ご理解とご協力に御礼申し上げます。

また、その異例な状況下でその都度的確なご指示をくださいました家元、寿子先生、役員の皆様に重ねて御礼申し上げます。

記念舞踊会は感染状況の深刻な時期に一度延期をして、再度開催することができましたが、同時期に延期ではなく中止の判断をした舞踊会も少なくありませんでした。不安と心配で厳しい状況のなか、団結してこのような舞踊会を開催できる坂東流の皆様を素晴らしいと思っており、私は記念すべき一〇〇周年の事業に関わらせていただきましたことを光栄に思います。

さて、二〇二二年の今年、坂東会は一〇一年目を記念舞踊会の大成功でスタートいたしました。会員皆様のご活躍とともに、皆様の「坂東会」が末永く続くことをお祈りいたします。

特集 坂東会 創立百周年記念 舞踊会

九月十七日・十八日の二日間にわたって行われた坂東会創立百周年記念舞踊会、無事終了いたしました。連日たくさんのお客様にお越しいただき、開演前に長い列をつくってお待ちになるという場面もありました。一〇〇周年という大きな節目にこのような舞踊会を開催できましたことに、心から感謝申し上げます。

坂東会の創立は大正十（一九二一）年。当初は「坂東流舞踊研究会」と称し、ごくわずかな会員数だったそうです。大正、昭和、平成を経て一〇〇年を迎えるにあたり、当初は二〇二〇年に記念舞踊会開催の予定でした。それが感染症禍によって二年間の延期。二年先とはなんて永いのだろうと、誰もが思いました。

二年越しであがった花火は、歴代の家元、坂東会のために尽力されたお師匠さん方にも届いていることと思います。次の一〇〇年に向かって気持ちを新たに、大きな一歩を踏み出していきましょう。

プログラムで振り返る坂東会舞踊会

坂東流舞踊大會
（昭和31年6月28日・29日／新橋演舞場）

主催「坂東流舞踊研究會」、指導「坂東三津五郎」（七代目）。プログラムが現存する坂東会記念舞踊会の一番古いものです。初日の序幕は長唄『花かつみ』。簑助（八代目家元）、八十助（九代目家元）のお二人で踊られています。2日間で37演目が並びました。

坂東流舞踊大會
（昭和32年6月30日／歌舞伎座）

舞踊劇『倭弥栄寿枕物狂』（やまとやのさかえことほぐものぐるい）では、三津五郎（七代目家元）、簑助（八代目家元）、八十助（九代目家元）、寿（十代目家元）の家元四代のほか、慶子（八代目家元次女）、寿子（八代目家元三女）、守田勘弥など大和屋に連なる方たちが出演されました。

坂東流舞踊大会
（昭和40年9月27日／歌舞伎座）

七代目の追善舞踊会後初めての坂東会による舞踊会。八代目家元が振り付けられた荻江節『山姥』、杉昌郎作、木の実会同人の振り付け『烏鷺の曲』が上演されました。

昭和31年 32年 33年 34年 40年 45年

坂東流舞踊大会
（昭和33年3月27日／大阪歌舞伎座）

大阪開催。簑助（八代目家元）は巻頭の挨拶で、関西で開催されることの喜びを記されています。今東光作『お吟さま』を新作舞踊として上演。振り付けは三津之丞。七代目は病中にて欠席されました。

坂東流舞踊大会
（昭和34年7月30日・31日／新橋演舞場）

この会のために、久保田万太郎作詞による『あさくさばなし』が書き下ろされ、簑助（八代目家元）が振り付けられました。

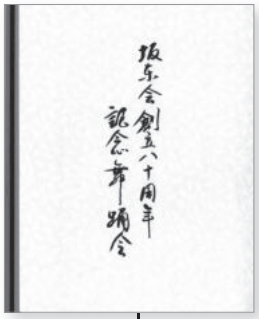
坂東流舞踊大会
（昭和45年9月26日／歌舞伎座）

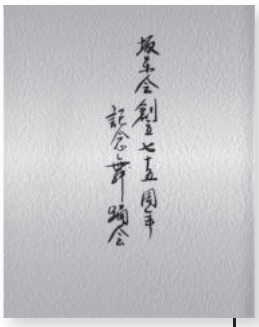
三津之丞、三津代の古参の師匠逝去後の舞踊会。三津十郎振り付けの常磐津『千歳の松』、三津加振り付けの長唄『晴天の鶴』が並び、巻頭の挨拶で「次世代の若いエネルギーによる活気あふれた機運が頼もしい」と八代目家元が述べられています。

＊敬称略。また、当時のお名前に準じました。

坂東会創立八十周年記念舞踊会
（平成12年8月29日・30日／
国立劇場大劇場）

　前年に九代目家元を亡くしての開催。翌年、三津五郎襲名を控えた八十助（十代目家元）が監修された初めての舞踊会でした。初日第一部の序幕では、長唄『末広狩』を八十助、巳之助（十一代目家元）のお二人が踊られています。



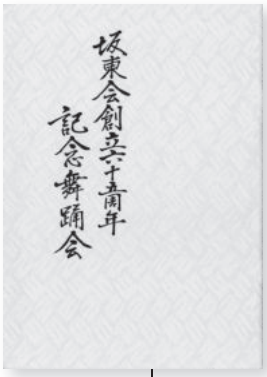


坂東会創立七十五周年記念舞踊会
（平成8年8月1日／
国立劇場大劇場）

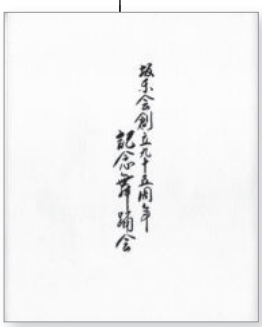
　九代目家元による巻頭挨拶で「坂東会創立当時は、『坂東会旗』をつくり会のロビーに飾っていた」という話が披露されています。上越地区、九州地区、四国地区、東海地区、さらにはロサンゼルスからも出演者が集まりました。

坂東会創立六十五周年記念舞踊会
（昭和60年8月10日／
国立劇場大劇場）

　坂東会最古参の三津蔵による常磐津『山姥』、九代目家元が振り付けられた長唄『花かつみ』を家元自ら踊られています。



27年　17年　12年　8年　平成3年　60年



坂東会創立九十五周年記念舞踊会
（平成27年9月20日・21日／
国立劇場大劇場）

　2月に十代目家元が急逝後の記念舞踊会。生前、番組・演目などにお心を砕いてくださり、そのご意志を継いでの開催となりました。十代目より引き継がれた現家元の元に会員が集まり、一同が力をあわせて会を盛り上げました。

坂東会創立八十五周年記念舞踊会
（平成17年9月21日・22日／
国立劇場大劇場）

　九代目家元の七回忌にあたる年に開催。追善の意味も込めて、十代目家元と巳之助（十一代目家元）による長唄『連獅子』、長唄『独楽売』（ほかに、寿子・秀子・奈央・幸奈・里子のご家族が出演）が並びました。

坂東会創立七十周年記念舞踊会
（平成3年8月17日・18日
／国立劇場大劇場）

　三代目三津五郎の『源太』の浮世絵が表紙。初日夜の部の最後に、九代目家元が常磐津『源太』を踊られました。

Album（アルバム）

舞踊会当日までの様子を
写真で追ってみましょう。

かつら合わせ

7月23日(土)

進行・照明・衣裳・小道具の打合せ

浅草見番にてかつら合わせ。それぞれのお稽古場で稽古を積んできた出演者が集まり、いよいよ本番へ向けての準備が始まりました。

所化のかつら合わせ。
今回使う坊主のかつらは
なんと55枚！

つぼ合わせ

8月22日(月)・23日(火)

国立劇場大稽古場にてつぼ合わせ。地方さんやお囃子さんとのつぼ合わせ、狂言方さん、後見さんとの打ち合わせも行いました。

『四君子』三津兵衛

『旅』千扇

『保名』弥余伎女

『伊勢参宮』以津緒・楓・幸緒里・
以和・以緒莉・佳緒乃・以紗緒

『幻椀久』久三之助・久三菜

『喜撰』三津映・三太映

『峠の万才』
永紫・蝶

『女伊達』八都代

『奴道成寺』家元・所化・花四天

下浚い

9月8日㈭・9日㈮

8日㈭浅草公会堂にて、9日㈮北とぴあにて下浚い。家元から、台詞の発声、衣裳のさばき方、小道具の扱い方など細かいご指導もいただきました。

『団子売』京弘女・三奈慧

『大坂万歳』若梢・三裕起

『五人三番叟』
真祥三・扇弘・野里行・以乃輔・大夢

『男女道成寺』三知・友女香寿・所化

『喜撰』扇菊・扇朱・所化

居処合わせ

9月15日㈭

国立劇場大劇場にて居処合わせ。本番で使用する所作台の上で、舞台空間をどう使うかの確認をしました。

『鶴亀』寿子・幸奈・里子

『大江戸両国花火』大道具の配置、出入りチェック

当日 17日

無事開催１日目を迎えることができました。会場の賑わい、楽屋裏で見られた出演者の笑顔、スタッフの方々のご尽力の様子をご紹介します。

舞台袖での衣裳替えは時間との勝負

昼の部序幕は家元の『花かつみ』

17日朝、いよいよ開場

師匠、所化の舞台を見守るお梶

番組順に並べられた衣裳

坂東彌十郎丈、新悟丈から届いたお祝いのお花

舞台が終わり、上手にはける長唄の皆さん

出演を終えて家元にご挨拶

企画作品『五人三番叟』の出演者と指導担当の利太郎さん

『峠の万才』の太夫と才蔵

ひと月以上前から準備をしてきてくださった床山さん

各日約70人の舞台化粧をこなしてくださった顔師さん

頭取部屋の様子

黒御簾内の
お囃子さん

舞台が終わって
一門で記念撮影

地方の委員さんも加わってお手伝い

衣裳部屋前、
弟子の着付を見守る師匠

楽屋裏の大変な仕事

当日 18日

開催2日目。台風の影響でお足元の悪い中、大勢のお客様が足を運んでくださいました。本当にありがとうございました。

朝の楽屋口

当日券をお買い求めのお客様のための販売窓口

18日は雨にも関わらず長蛇の列

連日たくさんのお客様

彩奥様、奈央さんが並びロビーでお出迎え

舞台が整うのを待つ出演者

受付でお客様をお迎えする

家元の『老松』を袖から見守る寿子先生

プログラム、百周年記念誌等の販売

支度が整い出番を待つ

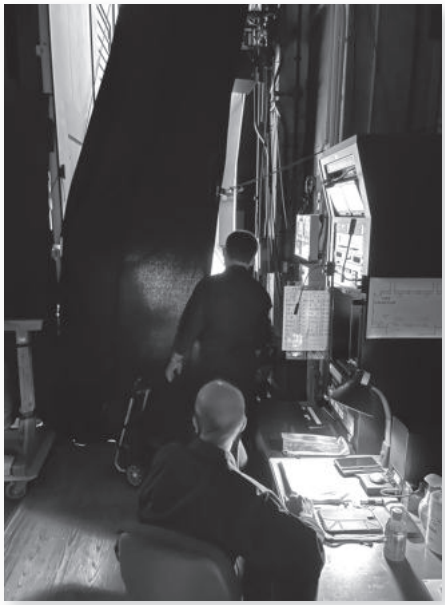
素早く舞台転換する大道具さん

舞台袖で控える後見

関西の委員さんも
手伝いに駆けつけて

三つ大、花かつみ紋の衣裳で

前事務局の鷹野正太郎さんも駆けつけて



舞台袖で進行の指揮をとる狂言方さん

出を待つ小道具

盛会の終演ロビー

終演後、手締めの前に挨拶をされる家元、寿子副会長

会の最後を飾った家元の『奴道成寺』

すべての舞台を終えて

18日終演後、出演者一同が客席に集まり、家元、寿子副会長の音頭で手締めを行いました（写真）。
寿子副会長からいただきました「次なる坂東会へ向けて」のメッセージ、
そして会のために尽力された実行委員の皆さんからのお言葉を掲載します。

副会長からのメッセージ

一〇五周年、一一〇周年と会は続きます

坂東寿子

「坂東会創立百周年記念舞踊会」二日間の会が大盛況に終わり、おめでとうございます。

そして皆さま、本当にありがとうございます。特に実行委員の方々は二年前から着々と準備を重ね、当日は委員の仕事はもちろん、舞台出演もなさって本当にお疲れさまでした。

この実行委員は坂東会において初めて設置されたもので大変良い試みだと思います。自分たちでコツコツと作り上げてきたものが大輪の花を咲かせ、坂東会は自分たちのためにあるということを身をもって実感されたのではないでしょうか。

また十代目が亡くなってから、この先坂東流はどうなるのだろうと不安に思っていらっしゃった方々、この一〇〇周年舞踊会をご覧になって、うちの流儀も捨てたものではないと感じていただけたのではないかと思います。これから先、一〇五周年、一一〇周年と会は続きます。この実行委員会は、ぜひ続けていただきたいとこれが私の願いです。

最後に今回の会に出演された方々を初め役員の方、委員の方、すべての方に感謝、感謝、感謝。

実行委員の皆さんから

未来への架け橋となることを願って

百年という歴史の中で、坂東会が歩んできた、その歩みを象徴するものは何かを考えた時、歴代家元のご活躍と、それをお支えしていらした師匠方のご尽力に他ならないと思いました。この時勢を考慮し、どのようにそれを記念舞踊会に反映するかを考えたとき、方向性は自ずと示されたようです。

プログラムの家元ご挨拶にもございますように、企画当初には、他流の方や役者さん方にご出演を頂き、華を添えて頂く案もございましたが、百周年だからこそ、二日間全ての演目において、坂東流門下の者のみで上演される舞踊会をという、家元のご意向により実現いたしました。そして、そのことを嬉しく、誇らしく思っていただけたことは、何にもまして果報と心得ております。

この百周年という節目が、過去の偉功への褒誉や謝意だけではなく、次の百年、次の未来への架け橋となることを願いながら、実行委員のお役目を全うさせていただきます。委員一同、皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

百周年記念舞踊会実行委員（扇菊・利太郎・三裕起・友女香寿・若梢・蝶・京弘女）

第58回 坂東流たすけあい チャリティー舞踊会を開催します

今年も年末恒例のチャリティー舞踊会の季節がやってきました。再び会場を浅草公会堂へ戻しての開催です。皆さまのご来場を心からお待ち申し上げます。

日　時　令和4年12月3日(土) 正午開演
場　所　浅草公会堂
入場料　5,000円
主　催　坂東会

※お切符は出演者、または坂東会事務所までお問い合わせください。

常磐津	**廓八景**		
	ご挨拶		久三之助
常磐津	**子宝三番叟**		
		大名太郎冠者	三津映舞花
清元	**卯の花**		
			勇寿勇富
長唄	**八島官女**		
			桃子
長唄	**藤娘**		
			香寿舞
清元	**子守**		
			香寿華
清元	**お祭り**		
		からみ	弘二郎
		からみ	寛之介 扇弘
長唄	**都鳥**		
			香代
清元	**喜撰**		
		喜撰法師	千扇
		お梶	一十三
長唄	**まかしょ**		
			勝安栄
長唄	**二人椀久**		
		椀久	三信之輔
		松山	勇代
清元	**吉野山**		
義太夫		静御前	凛香
		忠信	扇菊
俚奏楽	**雨の月**		
			友女香寿
清元	**浮かれ坊主**		
			以津緒
荻江	**山姥**		
			三千梅
清元	**傀儡師**		
			利太郎

第59回 坂東流たすけあい チャリティー舞踊会 出演者募集

令和5年「坂東流たすけあいチャリティー舞踊会」は浅草公会堂にて11月または12月の開催を予定しております。

お申し込み方法は次の通りです。詳細は坂東会事務所までお問い合わせください。

申し込み方法は、往復ハガキ、メール、ファックスの3つ！

受付期間は令和4年12月1日～令和5年5月末！

お申し込みの方法・受付期間が変わります！

- 申し込みには次の3つを明記してください。
  出演者(芸名)、演目(20分以内)、演目の所要時間、衣裳付きの可否
  ※踊る演目の所要時間を必ず明記してください。
- 演目が重複した場合は、番組の編成上、変更をお願いする場合があります。
- 演目数が整い次第締め切らせていただきます。

東・西ゆかた会は来年も開催の予定です。
詳細は20ページをご覧ください。
皆さまのご参加をお待ちしています！

西日本チャリティーゆかた会

第２回坂東流西日本チャリティーゆかた会が、6月18日㈯先斗町歌舞練場にて開催されました。

コロナ禍のため1年見送られての開催となり、出演者一同、舞台に立つことのできる喜びの熱気にあふれていました。

前日には寿子先生、温子先生のご指導のもと下合わせが行われ、当日を迎えました。

入場するお客様

初めてゆかた会に参加して

比夏乃

お名前をいただいてから初めての舞台でした。新型コロナウイルス感染症の流行と大学受験が重なり、約二年間舞台に立つことがなかったので、とても不安でしたが、師匠が毎日のように稽古をつけてくださったので、自信を持って自分の演目を披露することができました。また、諸先輩方の踊りも拝見させていただき、とても勉強になりました。

コロナ禍での開催に向け尽力してくださった関係者の皆様に深く感謝いたします。

これからも精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

チャリティーゆかた会に参加して

巴

温子師匠に勧めていただいたこともあり、今回初めてゆかた会に出させていただき、『近江のお兼』を踊らせていただきました。

先斗町歌舞練場という舞台で晒を振らせていただいたことは、お稽古場の練習とはまた違い、立ち位置や花道までの距離など学ばせていただくことがたくさんありました。出番ぎりぎりまでお師匠さん、後見さんなど皆様に気にかけていただき、ご指導いただけたことが何よりもありがたく感じた一日でした。

終演後、役員一同で手締め

下合わせの様子

会場の様子

東京チャリティーゆかた会

第3回坂東流東京チャリティーゆかた会が、7月3日㈰日本橋公会堂にて開催されました。

今回から平弟子さんも出演できるようになり、21番の出演がありました。2年ぶりの開催とあって大勢のお客様にお越しいただき、会場はたくさんのあたたかい拍手で包まれました。

『恋ほたる』の舞台

弟子たちと舞台に立つことができて　千代弥

五年前突然脳卒中に見舞われ、後遺症の残る中、大好きな日本舞踊を諦めることができず、懸命にリハビリを続けてきました。中断していた子ども向けのお稽古も昨年より再開し、この度ゆかた会に中学生三名の弟子と出演をさせていただきました。

左から吉田愛香さん、松尾凜奈さん、小池陽菜乃さん

所作台の上で踊るのが初めての弟子たちは少し緊張した様子でしたが、舞台の上では音をよく聞き三人で合わせようという気持ちを持って踊ってくれました。弟子たちの頑張りが後押しになり、私もまた舞台に立てたことに心躍らせながら一振り一振りを楽しみながら踊ることができました。

諦めず何度もお稽古してくださった先生や青年部時代の仲間の励ましがこの五年間の心の支えになりました。今後も弟子たちと共に一歩一歩成長できる様、稽古に励みたいと思います。

坂東のお名前をいただいたことを実感　桃子

このたび、第三回東京チャリティーゆかた会に参加することができ、とてもうれしく感謝しております。

五月号の会報で「出演受け付け中」というお知らせを見て、「私も出演したい！」と思い先生にお話ししました。急なことでしたがお許しいただき、演目は以前習ったことのある長唄『富士』に決まりました。当日は緊張のあまり出の部分の間を間違えてしまい、お稽古通りに踊るのは難しいなと思いました。でもこうした舞台に立つことができて、お名前をいただいたことの実感と責任を感じることができました。また、三歳の頃から大好きな歌舞伎と日本舞踊は、自分にとってなくてはならないものだと改めて感じました。

こらからもお稽古に励み、失敗などたくさんの経験を積みながら、坂東流の一員としてがんばっていきたいと思います。また歌舞伎や日本舞踊などの日本の伝統文化を、一人でも多くの方に知っていただけるよう、力になっていきたいです。

居処合せの様子

坂東会のできごと

令和4年4月～9月

延期となった第3回芸の伝承ビデオ上映会『納豆売り』、第2回西日本チャリティーゆかた会、第3回東京チャリティーゆかた会が無事開催され、息つく暇もなく坂東会創立百周年記念舞踊会に向けて本格的に準備が始まりました。

四月五日㈫
【広報部委員会】
●**会報一三七号初校**
四月十三日㈬
【理事会】
●**ビデオ上映会『納豆売り』**
企画書の内容を確認。
●**西日本チャリティーゆかた会、東京チャリティーゆかた会、坂東流たすけあいチャリティー舞踊会**
番組編成を行った。
【企画部委員会】
●**第三回ビデオ上映会『納豆売り』**
進行について話し合った。
【役員懇親会】東京會舘
出席者／久三之助・蝶・京弘女・勝規・三千踊・三太映・喜美生・ありか・はつ花・寿々風・扇輔・鷹野
●**委員の活動について**
理事会より企画部・広報部合同委員会定期開催の提案があった。
四月十五日㈮
【広報部委員会】
●**会報一三七号再校**
四月二二日㈮
【広報部委員会】
●**会報一三七号色校**
五月九日㈪
【広報部委員会】
●**会報一三七号発送作業**
五月十日㈫
【合同会議】
出席者／久三之助・蝶・京弘女・勝規・三千踊・三奈慧・三太映・喜美生・寿々風・鷹野
●**第五十回坂東会定時総会**
令和五年三月四日㈯帝国ホテル富士の間を仮押さえ。
●**ビデオ上映会『納豆売り』**
当日配布の資料、進行台本の確認。
●**東西チャリティーゆかた会**
出演者へ届け物があった場合は本人がロビーで対応する。
当日の担当割り。
●**百周年記念舞踊会**
かつら合わせは密を避けるため時間を区切った通知を出す。
かつら合わせ、下浚いの担当割り。
五月十一日㈬
【理事会】中止
六月四日㈯
●**第三回芸の伝承ビデオ上映会『納豆売り』（国立劇場伝統芸能情報館）**
六月十三日㈪
【理事会】
●**ビデオ上映会の会計報告等**
●**百周年記念舞踊会**
居処合わせ九月十五日に決定。
当日の担当割りを確認。前期委員へ協力依頼を検討する。
楽屋出入りは出演関係者以外禁止とする。
六月十七日㈮
●**西日本チャリティーゆかた会下合わせ（先斗町歌舞練場）**
六月十八日㈯
●**第二回坂東流西日本チャリティーゆかた会（先斗町歌舞練場）**
六月二三日㈭
【百周年記念舞踊会実行委員会】
●**プログラムについて**
作成担当（扇菊、友女香寿、若梢）より経過報告。
●**つぼ合わせ、下浚いについて**
時間割の見直し。
●**会員への案内について**
七月中に会員全てに入場券申込書を送付する。役員経験者には招待券（希望の部と引き換え）を送る。
●**記念品の確認**
六月二八日㈫
【百周年記念舞踊会実行委員会】
●**下浚い会場について**
浅草公会堂（九月八日）、北とぴあさくらホール（九月九日）に変更。

「芸の伝承 ビデオ上映会」 第三回 『納豆売り』のご報告

第6波の感染拡大により、当初予定されていた3月5日㈯のビデオ上映会は6月4日㈯国立劇場伝統芸能情報館で開催となりました。

寿子先生、勝友先生、温子先生にご登壇いただき、会員49名が参加。司会の三代智さんによる解説の後、ビデオを上映しました。続く座談会では、昔は30あまりの小道具を使用していたことや、キセルを題材にしての小道具の使い方、役の性根のつかみどころ、色模様になる時は相手方に惚れること等、大変貴重なお話を伺いました。

七月三日(日)

●**第三回坂東流チャリティーゆかた会(日本橋公会堂)**

七月八日(金)

【合同会議】

出席者／久三之助・友女香寿・蝶・勝規・三千踊・三奈慧・三太映・喜美生・はつ花・寿々風・鷹野

●**百周年記念舞踊会について**

七月中に会員全てに入場券申込書、役員経験者には招待券(希望の部と引き換え)を送ることを確認。記念品の報告。

●**関西支部委員会報告**

・西日本チャリティーゆかた会
当日会場募金は三二、二〇〇円。
・次回開催について
令和五年六月十七日(土)先斗町歌舞練場。下合わせなし。
・家元講習会(『河千鳥』後半)
東京と合同開催を希望する。

●**東京チャリティーゆかた会**

当日会場募金は三三、五六〇円。
感染対策についての反省。
次回は深川江戸資料館を検討(日本橋公会堂の空きがないため)。

●**第四回ビデオ上映会**

企画部より企画内容の経過報告。

七月二十日(水)

【理事会】

●**百周年記念舞踊会**

出演者への配布書類の内容確認。(個人の巻き物不可。楽屋退出は出演後六十分以内。通行証は出演日のみ楽屋と正面入り口で使用可能)
大道具打ち合わせはつぼ合わせ時。
スタンド型検温器を購入する。
居処合わせタイムキーパー／利太郎、久三之助。進行表の作成／鷹野。

●**次回東京チャリティーゆかた会**

令和五年七月二九日(土)深川江戸資料館小劇場。

七月二三日(土)

●**坂東会創立百周年記念舞踊会かつら合わせ(浅草見番)**

七月三十日(土)

●**名取試験科目『松の緑』講習会**

中止

七月三一日(日)

●**師範試験科目『北州』『藤娘』講習会**

中止

八月四日(木)

【理事会】

●**百周年記念舞踊会**

つぼ合わせ、下浚い、当日各前日の抗原検査を出演者及び関係スタッフに依頼する。
招待席を一階後方に一列設ける。

●**第四回ビデオ上映会**

検討の結果『旅雀』『矢矧の里』を選出。講師を依頼せず上映のみの開催を提案する。
坂東流に残したい演目を知ることを目的とし、平弟子の参加も促す。

●**年会費の支払い**

振込先の通知のみに変更することを検討。

八月十六日(火)

【百周年記念舞踊会実行委員会】

●**居処合わせについて**

進行表の確認と決定。

●**当日について**

最終確認。

八月十九日(金)

【広報部委員会】　中止

八月二二日(月)、二三日(火)

●**坂東会創立百周年記念舞踊会つぼ合わせ(国立劇場大稽古室)**

八月二六日(金)

【合同会議】

出席者／久三之助・友女香寿・勝規・三千踊・三太映・喜美生・ありか・寿々風・鷹野

●**百周年記念舞踊会**

下浚い、当日の感染対策を確認。
手締めは舞台(家元)と客席(出演者と係のみ)で行う。

●**会報一三八号について**

百周年記事掲載のため発送日の遅延を承認。

【広報部委員会】

●**会報一三八号及びチャリティー舞踊会出演の手引書編集会議**

九月三日(土)

●**師範試験**　中止

九月四日(日)

●**名取試験**　中止

九月八日(木)

●**坂東会創立百周年記念舞踊会下浚い(浅草公会堂)**

九月九日(金)

●**坂東会創立百周年記念舞踊会下浚い(北とぴあさくらホール)**

九月十五日(木)

●**坂東会創立百周年記念舞踊会居処合わせ(国立劇場大劇場)**

九月十七日(土)、十八日(日)

●**坂東会創立百周年記念舞踊会(国立劇場大劇場)**

坂東会創立百周年記念舞踊会のプログラムを作成しました

演目解説は、坂東会記念舞踊会のプログラムの解説を長年手がけられてきた故・杉昌郎先生の書かれたものをもとに実行委員が作成し、監修は歌舞伎研究者で社団法人日本舞踊協会副会長でおられる古井戸秀夫先生に、お力添えをいただきました。家元のご挨拶のほか、尾上松緑様・市川猿之助様からのご祝辞も掲載しています。

プログラムは舞踊会当日ロビーにて、800円で販売しました。

講習会 上映会

試験曲講習会
講習会の目的は名取試験、師範試験に向けたものですが、勉強のための受講希望者も受け付けています。

■**松の緑**
師範会員の方対象です。お弟子さんに名取試験をお考えの師範会員の方は参加をお勧めします。
日時／令和5年1月21日(土)午前11時より
場所／祐天寺稽古場(目黒区祐天寺2-15-12)
受講料／5000円
講師代表／以津緒

■**北州・藤娘**
師範会員の方対象、ただし師匠と一緒に受講するのであれば名取の方も受講できます。
日時／令和5年1月21日(土)午後1時30分より(北州・藤娘・同日)
場所／祐天寺稽古場(目黒区祐天寺2-15-12)
受講料／北州10000円、藤娘5000円(名取受講料各5000円)
講師代表／三津桜

試験

春の名取・師範試験
詳しくは事務所までお問い合わせください。

名取試験・師範試験／3月初旬頃を予定
会場／浅草見番を予定
申し込み締切日／11月末日
※詳細は締め切り後、お知らせします。

チャリティー舞踊会

第58回坂東流たすけあいチャリティー舞踊会を開催します
日程／12月3日(土)
会場／浅草公会堂
＊詳細は本紙15ページをご覧ください。

東西坂東流チャリティーゆかた会出演者募集
チャリティーゆかた会は、名取だけでなく、一般のお弟子さんも出演することができます。これを機会に芸の精進につなげませんか。出演費は38000円(西日本チャリティーは40000円)、入場券(1000円)が10枚含まれています。
※出演をご希望の方は事務所へお問い合わせください。番数が揃い次第締め切りとさせていただきます。

■**第3回西日本チャリティーゆかた会**
日時／令和5年6月17日(土)
会場／京都先斗町歌舞練場

■**第4回東京チャリティーゆかた会**
日時／令和5年7月29日(土)
会場／深川江戸資料館小劇場(江東区白河1-3-28)

第4回 芸の伝承「ビデオ上映会」のお知らせ

第4回の上映会は、三津二郎相談役からお借りしたビデオから、坂東流ならではの珍しい演目である常磐津『旅雀』((1991年上演/立ち方：三津凰、三津緒、三津二郎)、清元『矢矧の里』(1984年上演/立ち方：寿子、三津二郎)の二題です。

『旅雀』の初演は弘化4(1847)年。当時に人気だった職業や遊芸などを題材に、「義経千本桜」の道行の下の幕として上演されました。一方『矢矧の里』は、前半は牛若丸と浄瑠璃姫、後半は地紙売りと人形売りで世話に砕ける二人立の曲。初演は江戸時代末期、坂東三弥吉振り付けです。

今回は洋服でご参加いただけるビデオ鑑賞のみの会となっております。平弟子さんにもぜひお声掛けください。

矢矧の里

旅雀

日時／12月18日(日) ①14時～15時
②15時15分～16時15分
会場／伝統芸能情報館3階レクチャー室
参加資格／坂東流門下(名取以外も参加可)
定員／50名
参加費／2000円
※①②どちらの回も『旅雀』『矢矧の里』を続けて上映します。なお、1回の参加費で続けてのご視聴も可能です。
申し込み／ファックス、メール、または葉書で「参加者全員の芸名・氏名　視聴希望回」を記入の上、坂東会事務所までお申し込みください。

舞踊会

会員の舞踊会の情報です。お切符など詳細は会主、または坂東会事務所までお問い合わせください。

■**第13回　寛和会**
日時／令和5年1月22日㈰午後1時30分より
会主／坂東寛二郎
会場／国立劇場小劇場
入場料／5000円

■**ふきの会～故坂東梢先生に感謝を捧げて～**
日時／令和5年2月25日㈯
会主／坂東冨起子
監修／坂東京子
会場／国立劇場小劇場
入場料／5000円

■**扇の会勉強会**
日時／令和5年4月8日㈯
会主／坂東勝友・坂東朋奈
会場／日本橋公会堂
入場料／2800円

■**みほし会**
日時／令和5年5月7日㈰11時より
会主／坂東三穂祥
会場／浅草公会堂
入場料／無料

その他

富士・さくらの修了証の発行
流儀の曲である長唄『富士』、清元『さくら』を習得した方には、修了証を発行します。お申込みの締切日は次の通りです。
締切日／2月10日、6月10日、10月10日

会員専用ページ情報満載！
坂東流ホームページをご活用ください。
行事や会員の活動を順次アップしていきます。
※会員ページパスワード：bando100

■**お稽古場紹介**
掲載料／6000円（1年間）
掲載期間／年度末（3月末）まで

■**お稽古場訪問**
掲載料／5400円（1回）
掲載期間／約1カ月

青年部部員募集

青年部では随時部員を募集しています。毎年2～3回程度の講習会や勉強会を企画しており、若手の名取・師範名取が技芸を磨き、交流を深める活動を行っております。部員資格は満49歳までの名取で、親師匠の許可があればどなたでも入会できます。

ご入会希望の方は、青年部アドレス（seinenbu.rennraku@gmail.com）までお問合せください。年会費3000円。

オンラインによる第19回総会

第50回坂東会総会を開催します

新型コロナウイルス感染症により、2年間、規模を縮小して開催してまいりましたが、今年は例年通りの開催を予定しております（人数、福引などについては検討中です）。詳細はハガキにてお知らせいたします。

日時／令和5年3月4日㈯
会場／帝国ホテル富士の間

無事、100周年記念舞踊会が終了したことを墓前にご報告

10月13日㈭、役員一同で、多磨霊園の歴代家元が眠るお墓へ100周年記念舞踊会が無事終了したことをご報告に行ってまいりました。

当初令和2年9月に開催予定だった会は、2年越しでの実現となりました。

墓前では100周年の区切りを迎え、さらなる当流の発展をお祈りさせていただきました。　（企画部）

坂東流ホームページにて、
今冬動画配信予定！

動画

三津之丞を知る！
第一話～天才三津之丞先生編～（後編）

第一話～天才三津之丞先生編～（前編）は動画配信中です。舞踊家、そして振付師として活躍なさった三津之丞お師匠さんのお人柄やエピソード、振り付けされた作品をご紹介しています。ぜひご覧ください。

※会員ページパスワード：bando100

ご寄稿

二世週祭「お帰りなさい」

坂東秀十美

二世週祭は毎年、ロサンゼルスのリトル東京地区で九日間にわたって開催される、日本の文化を多くの人と共に楽しむお祭りです。一九三四年に二世の日本人商店主たちによってスタートし、二世日系アメリカ人が日本文化の架け橋となる試みの元で設立されました。今年は戦時中の中断、またコロナ禍の中断を乗り越えて八十回目の記念の年を迎えました。

今年の二世週祭のテーマは「お帰りなさい」でした。コロナ禍による二年間の空白後の今回、パレード、閉会式に参加し、二世週祭との絆とその大切さを再認識しました。二世週祭は家族、友人、二世週祭のスタッフ、観客、全てがいろいろな形で一つになり築き上げられています。コミュニティの方々の笑顔と喜びにあふれて踊る姿は私にとっての宝物です。

これからも微力ながら、さまざまな流派の先生方と門下生の皆さん、一般の方々との交流を深めながら二世週祭を盛り上げていければと思います。

坂東流のお揃いの浴衣を着てパレードに参加

ご報告

三恵広さんが愛媛県八幡浜市「市功労者」に表彰されました

三恵広さんは、昭和四〇年代にアメリカ・ロサンゼルスに移住し、現地で坂東流を広めた三津拡さんのお弟子さんです。十一歳で三津拡師（当時三津広）に支持し、十七歳で七代目家元よりお名前をいただきました。その後、お師匠さんのいる地・ロサンゼルスの舞台に立つとともに、地元の八幡浜市でも活躍。平成二六年八幡浜市文化協会文化功労賞を受賞するほか、八幡浜市「てやてや踊り」の振り付けに参加し指導教育に協力するなどの活動が、今回の表彰となりました。

三恵広さん出演の「いざや！にっぽんの踊りと響き」のフライヤー

表彰式で八幡浜市市長（右）、副市長と三恵広さん

坂東梢先生を偲んで

相談役の坂東梢先生が令和四年四月十五日、八九歳でご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

五十名にのぼる名取を育て、平成二七年からは相談役として坂東会を支えてこられました。

門弟を代表して若梢さんにご寄稿いただきました。

「もう一回」「もう一回」と辛抱強く教えてくださいました

坂東　若梢

令和四年四月十五日早朝、敬愛申し上げる坂東梢先生が永眠されました。

二日前まで二階のお稽古場にいらしてご指導頂いていたので突然の訃報が信じられず、直ぐには涙が出ないほど哀しみが深すぎました。ご高齢のため足腰が弱くなられましたが、週に三日は半日ほど椅子に座って稽古をつけてくださっていました。

梢先生は幼少の頃から近くの坂東流に入門し、戦後になり三津加先生の神田の稽古場まで通われたそうです。大変探求心をお持ちで武智鉄二先生には歌舞伎塾で、狂言は茂山千五郎先生、地唄舞は吉村雄輝先生にご指導頂いたと聞いております。最近は特に当時の素晴らしい芸談を伺う機会が多くありました。武智先生の助手でオペラの演出も手掛けられています。

そのような体験が本業の日本舞踊に反映されていましたし、様々な知識をお持ちで分野を問わず惜しみなく教えてくださいました。

いつも笑顔で、不機嫌そうなお顔は全く拝見することがなく、怒られたことがありません。稽古では「もう一回」「もう一回」と辛抱強く教えてくださいました。「もう一回踊れば良くなるかしら」という思いからとのこと。梢先生の教えを微力ながら伝承してまいりますので、お見守りください。

坂東慶様ご逝去

八代目ご息女・慶子奥様が令和四年八月四日にご逝去されました。坂東会創立百周年記念舞踊会の開催を目前にして、突然の訃報でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

京都の家でのお稽古の様子。左が慶子奥様

お悔やみ申し上げます

令和三年十二月二七日　坂東三松
令和四年　坂東映理基
令和四年一月十六日　坂東三代寿乃
令和四年三月六日　坂東三津雅
令和四年三月二一日　坂東寿弥
令和四年四月十五日　坂東梢
令和四年四月十五日　坂東富三菜穂
令和四年四月二二日　坂東駒鶴
令和四年四月二三日　坂東勝紗代
令和四年四月三十日　坂東愛富志
令和四年五月二六日　坂東蔦三悦
令和四年六月一日　坂東芙美二
令和四年七月一日　坂東三千敦
令和四年七月四日　坂東信裕
令和四年八月四日　坂東慶
令和四年九月五日　坂東三千丸
令和四年十月四日　坂東京之

坂東会　第一三八号
令和四年十一月一日発行

編集発行人　坂東会広報部
発行所　坂東会事務所
〒一〇一―〇〇四七
東京都千代田区内神田一丁目十八―十一　東京ロイヤルプラザ三〇一号
☎〇三(三五一八)八二一〇
FAX〇三(三五一八)八二二〇
E-mail：bandokai@crux.ocn.ne.jp

事務局だより

次回から、たすけあいチャリティー舞踊会の出演の申し込み方法等が変わります。チャリティー舞踊会をご覧になって「私も出演したい！」と思われた時にすぐにお申し込みができるよう、今年の十二月から受け付けを開始します。「鉄は熱いうちに打て」、詳細は十五ページをご覧ください。

（坂東会事務所鷹野）

編集後記

百周年記念舞踊会の開催後、舞踊会のご報告等をまとめる準備期間が必要だったため、発行日が遅くなりましたこと、この場をお借りしましてお詫び申し上げます。

本号にて舞踊会の様子をご報告できますこと、とても嬉しく思います。これからの一〇〇年のためにより多くの記録を残しておきたいと考えております。舞台写真や楽屋でのお写真など、ご提供いただけるものがございましたら、ぜひ坂東会事務所までお送りください。よろしくお願いいたします。

また、会員の皆さんからの原稿をお待ちしております。百周年記念舞踊会をご覧になった感想など、お寄せいただければ幸いです。

（広報部委員）

急報

坂東会相談役として、長年、坂東流・坂東会を支えてこられた三千丸先生が、九月五日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。次号にて先生を偲び、先生の足跡などを振り返りたいと思います。合掌